

II. 活動報告

work
life
balance
innovation

1. 意識改革

1-1. 女性研究者と学長・学部長の懇談会

各学部にて学長・学部長と女性研究者との懇談会を平成22年度は、5月10日の工学部での開催を皮切りに、7月8日に人文学部、7月9日に理学部・基盤教育院、8月2日に医学部、8月3日に地域教育文化学部、8月9日に農学部で開催した。

懇談会のテーマや参加対象者の枠組みは、各学部の男女共同参画推進委員が中心となり各学部内で検討した上で、男女共同参画推進室にて調整を行った。その結果、対象者や懇談会のテーマについては、学部毎の特色が出るものとなった。理学部・基盤教育院、農学部では対象者を女性研究者に限定して開催した一方、地域教育文化学部では女性研究者・男性研究者・事務職員に対象を広げ、人文学部では女性教員・男性教員・事務職員に加え、人文学部学生や他学部の教職員・学生等の参加を募り、興味のある人は誰でも参加できるような方法を採用した。医学部の場合は教職員に限定したものの、附属病院に勤務する教職員にも声をかけて参加を募った。

学長・学部長と女性研究者との懇談会・日程表

学部名	日時・場所	対象者	懇談会のテーマ	備考
人文学部 講演会+懇談会	7月8日(木) 人文学部第2会議室 講演：16:20～17:00 懇談会：17:00～17:30	人文学部の女性教員・男性教員・事務職員、人文学部学生、他学部の教職員・学生等、本勉強会に興味のある方。	「男女共同参画」及び、「ワークライフバランスの実現とその他の施策」等をテーマとした「勉強会」とし、国の施策や他大学の状況と比較しながら、山形大学における男女共同参画及びワークライフバランスの実現のための意見交換を行う。	16:20～17:00 講演会 講師：秋田大学男女共同参画推進室 准教授 川畑智子氏 「学術分野における男女共同参画～秋田大学の取り組みを事例に」
地域教育文化学部 懇談会+懇親会	8月3日(火) 同学部第14演習室 16:30～17:30	地域教育文化学部の女性研究者、関心のある男性研究者、事務職員	「地域教育文化学部における男女共同参画の推進—働きやすい職場づくりに向けて—」男女共同参画を推進し、働きやすい職場とするためには、どのような点が問題となり、どのような工夫が考えられるかなど、地域教育文化学部における男女共同参画とワークライフバランス等に関する意見交換を行う。	17:30～19:30 懇親会
理学部、 基盤教育院 懇談会	7月9日(金) 理学部会議室1 15:30～16:30	理学部女性教員、基盤教育院女性教員、男女共同参画推進室女性教員他	テーマは特に設けず、自己紹介の後に、自由に意見交換を行う。	
医学部 懇談会 指定討論+自由討論	8月2日(月) 医学部第5講義室 17:00～18:00	医学部及び附属病院に勤務する教職員	テーマ「医学部における男女共同参画の推進—働きやすい職場づくりを目指して—」 「山形大学男女共同参画基本計画」、及び、本学が推進している男女共同参画推進事業についての説明を行った上で、医学部における男女共同参画やワークライフバランス等についての意見交換を行う。	
工学部 講演会+懇談会+懇親会	5月10日(月) セミナー室 15:00～16:30	教職員、博士課程学生、参加希望者	「女性研究者にとって魅力ある山工学部とは」 東北大学女性研究者育成支援推進室の取り組みについての基調講演の後、山形大学の魅力ある工学部づくりに向けて、教員、職員、学生等、様々な視点から、自由に意見交換を行う。	15:00～15:30 講演会 講師：東北大学大学院医工学研究科教授 田中真美氏 「東北大学女性研究者育成支援推進室の取組～ハードリング支援事業からジャンプアップ事業へ～」 17:00～19:00 懇親会
農学部 懇談会	8月9日(月) 農学部会議室 11:00～12:00	農学部女性教員 他	テーマは特に設けず、自己紹介ののちに、自由に意見交換を行う。	

懇談会の形式も学部によって多様であり、テーマを予め設定して懇談を行う学部、テーマは一切設けずに懇談を行う学部、懇親会を開催する学部等、各学部のカラーの出る懇談会となった。

学長の挨拶に続いて、男女共同参画推進室長による「山形大学男女共同参画基本計画」の内容説明があり、その後、外部講師による講演（工学部、人文学部）、指名討論者による議論（医学部）、参加者による意見交換が行われた。農学部、理学部、基盤教育院、地域教育文化学部では、懇談会参加者による自己紹介と男女共同参画に纏わる一言を話し、参加者個々人の抱く男女共同参画についての考えを共有した上で懇談会が進められた。

テーマは自由に設定したものの、どの学部も、学部内における男女共同参画の進め方とワークライフバランスの実現を達成するにはどうすべきか、女性研究者が抱える問題やニーズは何か等についての意見交換が懇談の中心的な話題となった。

各学部別に見ると、工学部では、「女性研究者にとって魅力ある山大工学部とは」をテーマに、東北大学女性研究者育成支援推進室の取り組みについて、東北大学大学院医工学研究科教授田中真美氏より「東北大学女性研究者育成支援推進室の取組～ハードリング支援事業からジャンプアップ事業へ～」と題して発表が行われた後、山形大学の魅力ある工学部づくりに向けて、自由な意見交換が行われた。当日は、教員や職員に加えて女子学生が参加したため、女子学生にとっての工学部のイメージや、なぜ工学部を選択しにくいのか等について、学生側の意見を聞く貴重な機会となった。

人文学部では、「男女共同参画」及び、「ワークライフバランスの実現とそのための施策」等をテーマとした「勉強会」とし、秋田大学男女共同参画推進室・准教授の川畑智子氏より「学術分野における男女共同参画～秋田大学の取り組みを事例に」と題した講演を聴講し、国の施策や他大学の状況と比較しながら、山形大学における男女共同参画及びワークライフバランスの実現のための意見交換を行った。

理学部・基盤教育院では、出席者の自己紹介の後、ワークライフバランスの実現のための方法等自由な意見交換を行った。参加者個々人の抱く男女共同参画についての考えを共有した上で、男女共同参画及びワークライフバランス実現のための懇談が進められた。

医学部では、「医学部における男女共同参画の推進——働きやすい職場づくりを目指して——」をテーマに、医学部より討論者を指名し、所属分野の男女共同参画の現状についてのプレゼンテーションを行った上で、医学部における男女共同参画やワークライフバランス等についての意見交換が行われた。

地域教育文化学部では、「地域教育文化学部における男女共同参画の推進——働きやすい職場づくりに向けて——」と題して、働きやすい職場とするためには、どのような点が問題となり、どのような工夫が考えられるかなど、地域教育文化学部における男女共同参画とワークライフバランス等に関する意見交換を行った後、懇親会が行われた。

農学部では、テーマは特に設けず、懇談会参加者による自己紹介と男女共同参画に纏わる一言を話し、参加者個々人の抱く男女共同参画についての考えを共有した上で、男女共同参画及びワークライフバランス実現のための懇談が進められた。

工学部 東北大学大学院医工学研究科
教授 田中真美氏



工学部



工学部



人文学部 秋田大学男女共同参画推進室
准教授 川畑智子氏



人文学部



医学部



医学部



地域教育文化学部



地域教育文化学部



理学部・基盤教育院



農学部



懇談会の延べ人数は227名（内訳 人文学部：31名、地域教育文化学部：28名、理学部・基盤教育院：12名、医学部：140名、農学部：16名）で、予想以上の参加を得ることができた。

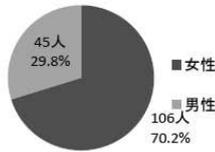
7月と8月に懇談会を実施したため、本年6月に策定された「山形大学男女共同参画基本計画」の内容を周知すると共に、本学の男女共同参画推進のための事業の内容を理解してもらい良い機会となった。また、各学部にて、学部所属の教職員が集まり、学部における男女共同参画のテーマで話し合う初めての機会となり、学部教職員の男女共同参画への関心を高めることに繋がったようである。懇談会に参加した人々からは「男女共同参画がどういうものかようやく理解できた」「個々の価値観やライフスタイルについて考える機会となった」等の感想が寄せられている。

しかし、どの学部も（特に医学部の）参加者の人数が多かったため、発言する順番が回ってこないなど、十分な懇談の時間を取ることができなかった。特に多人数の出席者が参加する懇談となったため、個人的なワークライフバランスについて、ざっくばらんに話すような雰囲気とはならなかった。さらに、時間が予定よりもオーバーした回もあったため、勤務中に一時的に参加している出席者は、懇談の途中で退席せざるを得ない状況が発生するなど、今後の懇談会の開催については、多くの課題を残すこととなった。

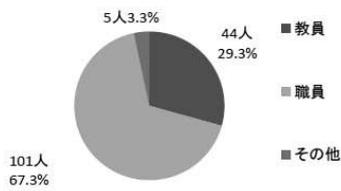
次年度についても、引き続き開催する予定であるが、多人数になった場合の懇談会の進め方を検討するとともに、個人的なワークライフバランスに関する事柄についても話しやすい雰囲気を作ること、勤務の合間を縫って出席している教職員に配慮し、懇談時間は厳守する等の改善を試みたい。

女性研究者と学長・学部長懇談会(2010年)アンケート結果

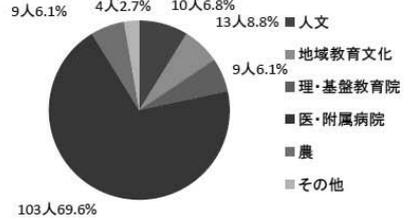
問1 参加者の性別
(n=151)



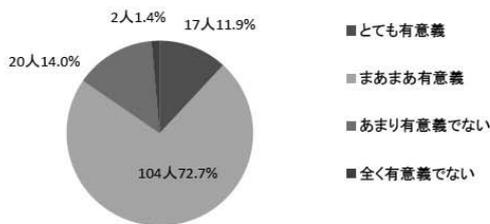
問2 職種(n=150)



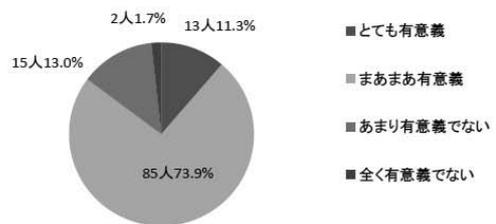
問3 所属学部
(n=148)



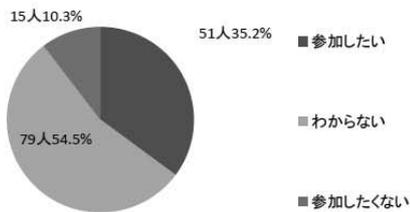
問4-1 懇談会は有意義でしたか
(n=143)



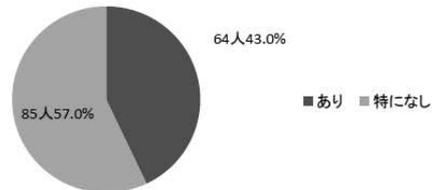
問4-2 講演は有意義でしたか
(講演があった学部のみ n=115)



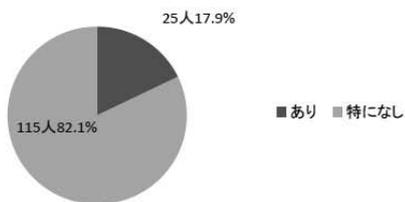
問5 次回以降の懇談会があれば参加したいですか
(n=145)



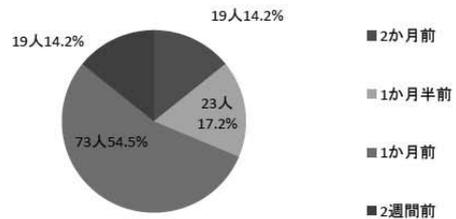
問6-1 懇談会に参加しやすい時間帯はありますか
(n=148)

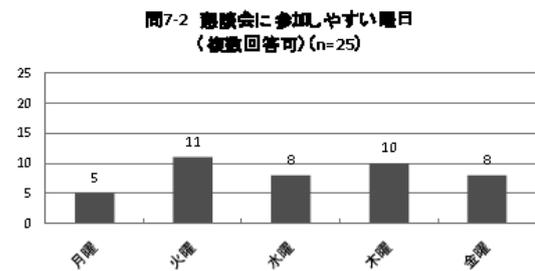
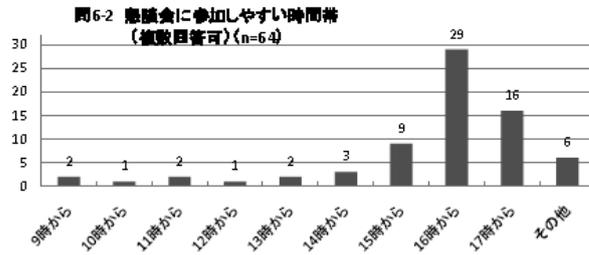


問7-1 懇談会に参加しやすい曜日はありますか
(n=140)



問8 懇談会開催をお知らせするのに適切な時期(n=134)





問8 懇談会の感想、次回以降の懇談会のテーマや開催の方法等ご自由にご意見をお聞かせください。(主な意見を抜粋)

1時間内で終了して欲しい。時間を守って下さい。
開催するのなら各学部の教官・担当者の出席を条件にワークショップ形式にしたほうが良いのでは？
部屋が暑かった。空調(冷房)の調整をお願いします。
男女共同参画について、もう少しテーマを細分化した方が良いのではないかと思います。例えば「育児・介護と支援」とか「仕事との関わり方」「利用できる制度」など
女性が共同参画するのにも、男性の支援のあり方も検討すべきではないでしょうか？結局、制度を設けていても、どこかに負担がかかりますし。
人手と費用を明確にするのが先なのかと思いますが、看護学科では少ない教員数で多くの負担がかかっています。もう少し、教員、技官数を増やすべきなのではないでしょうか？
医学部保育圏の費用は高いです。こういった経済的負担が「利用控え→仕事不可能」となる要因とも考えられます。
今後のテーマについて一言 男女共同参画といってもその実施はほとんど望めないのではないかと感じています。研究者として結果を残すためには、その環境を変えていく必要があると思います。
しかしながら夜遅くまで研究をしていること=イコール有能な研究者という(学院)社会的(アカデミック)アクセスでもいうのでしょうか…(遠慮ですが)評価は根強くあると思います。
しかも夜遅くまで残れない女性にはいわゆる「イジメアカデミックハラスメント」も実際に存在します。そういった事を公にできない実情はあり、それを公に話題として改善策を挙げられるくらい具体的な懇談会があっても良いかと思えます。もう一点、本日の懇談会の参加に関して女性の割合が多く、意識改革が基本計画内にも入っていることからせめて男:女=5:5の参加比率となるピーアールや参加対策が必要ではないかと考えます。
参加を学歴してゐるなら、直前にReminder"お知らせ"してほしい。質疑応答時間が短かすぎた。質問で手を挙げたがあたりなかった。

医師中心となって対策がたてられていると感じる。看護師の離職や潜在看護師が多い背景には男女共同参画が関与していると思う。・時間外の講演会が多く、休みでも強制に参加を求められている。年休ももらえない中、休みの時間がとられるのは…働きやすい環境と言えるのでしょうか。・ワークライフバランスを大切にされた対策を立ててほしい。
もう少し教員、医師の参加があった方がよい
医師の話が多いのに医師の参加が少ない。もっと様々な人が参加すべきではないのか。子育て中の人も参加しているので予定時間内で行ってほしい。
個々の価値観、ライフスタイルについて考える機会となりました。24h保育は実際にはNrsはあまり利用できないように思います。定員の増加、病児の保育について検討いただきたいと思えます。
男女共同参画がどういふものか、ようやく理解できました。今日出された、保育所の定員増などの要望をぜひ検討していただきたい。
男性医師にとっては男女共同参画ということ考える良い機会だと思います。しかしながら、圧倒的に女性ばかりで男性の参加が少なかったのは残念です。
看護師の出席が多かったため、看護師への支援について提示してほしかった。仕事の途中で来ているので、時間もう少し守ってほしい。
時間通りの運営願います。看護師の時控制度導入して下さい。看護師のカンファレンスルーム確保して下さい。
全体の時間を考えて講義して頂きたいです。超えるのであれば元から設定時間を長くして下さい。予定がたちません。
マイクの音量が小さかったのか、声が小さく、何を話されているのか聞き取れない部分が多かった。予定されていた時間が大幅に伸びたのが気になった。
長い年月を山大でお世話になっております。子育て時代は保育所もなく(2重に)個人の託児所にあずけ勤務して参りました。
子育て、出産に限らず、職員皆が停年まで働ける様な環境が必要と考えます。具体的には介護施設の設置を要望致します。
教員と事務系職員が(←本部・学部を含め)同じテーブルで話せたのはよかったのではないかと、回を重ねることに意義があるかも。
今回は開催したこと自体にイミがあると思うけど。個人的には「研究」しやすい環境づくりを考えるような話題が必要だと感じる(研究志向の女性教員が出席していなかったのが気になった)
共ばたらきを可能にさせるには？→山形では一般には率が高い。⇨大学では？→遠く地方からの勤労を良しとするべきか？女子学生をふやすには？→統計がもっとほしい。
時間が短かすぎるのでは。ある程度テーマを絞った方がいいのでは
他学部の女性教員の方と懇談の機会があって良かった
た、へんお世話になりました。もう少し、ざくばらんな雰囲気になるといいのですが、むずかしいですか…
理系の深刻さがよくわかりました。それに特化して検討をしいてほしいのではないかと感じました。

1-2. 男女共同参画フェスタ

本年度も、男女共同参画週間に合わせて、平成22年6月22日(火)～7月5日(月)にかけて、小白川キャンパス・インフォメーションセンターにて、男女共同参画フェスタを行った。

1-2-1. 概要

男女共同参画フェスタでは、開催期間中、インフォメーションセンターに、パネル展示と関連図書を展示した他、7月3日(土)には「映画でおしゃべり男女共同参画カフェ」、6月23日(水)には、「ジェンダーの社会学」「ジェンダーの文化人類学」の公開授業を行った。

【パネル展示】

- 山形大学男女共同参画基本計画
- 山形大学男女共同参画推進室の取り組み
- 「男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰状（高木直 地域教育文化学部教授）」パネル^(注)
- 大阪市女性協会「メディアウォッチ」

【関連図書紹介】

- 他大学・機関の報告書、男女共同参画推進室の蔵書展示

【映画でおしゃべり男女共同参画カフェ】

日時：7/3（土） 会場：インフォメーションセンター

内容：「映画を通して考える『お化けの世界の女と男』」

映画鑑賞とワークショップ

コメンテーター：幅崎麻紀子（男女共同参画推進室）

【公開授業】

- ①「ジェンダーの社会学」の公開授業

日時：6/23（水）10：30～12：00 会場：基盤教育1号館131教室

^(注)平成22年6月22日「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」（内閣府）において、「男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰」を受賞した地域教育文化学部高木直教授（山形大学男女共同参画推進委員）の表彰模様をパネルにしたもの

内容：「映画で見る性の多様性」

講師：坂無淳（男女共同参画推進室）

②「ジェンダーの文化人類学」の公開授業

日時：6/23（水）13：00～14：30 会場：基盤教育2号館221教室

内容：「映画を通して考える『私の身体は誰のもの？』」

講師：幅崎麻紀子（男女共同参画推進室）

1-2-2. 男女共同参画フェスタの様子



平成11年6月23日「男女共同参画社会基本法」の公布・施行日であることを踏まえ、内閣府男女共同参画推進本部は、毎年6月23日から29日までの1週間を「男女共同参画週間」とし、男女共同参画社会基本法の目的や基本理念について理解を深めることを目指しています。

山形大学においても、この趣旨に賛同し「男女共同参画フェスタ」を下記の通り開催いたします。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

☆ パネル展
① 山形ソーサライフバランス・イノベーション
山形大学が、男女共同参画の実現に向けて取り組んでいる改革の状況を紹介します。
② 「メディアウォッチ」
ウェブや新聞、ポスター等を男女共同参画の観点から見てみましょう。何が起きているのでしょうか。

☆ 関連図書紹介
男女共同参画推進室が所蔵する最近の文献や資料を紹介しています。

☆ 映画でおしゃべり 男女共同参画カフェ【7月3日（土）14：30～16：00】
映画を通して考える「おばけの世界の女と男」
コメンタリー（幅崎麻紀子（男女共同参画推進室助教））
映画をもとにぐちゃしぐちゃしきんについておしゃべりしましょう。
お茶やコーヒーを用意しております。

★ 男女共同参画フェスタ 公開授業 6月23日（水）会場：基盤教育2号館221教室
- 10：30～12：00 映画で見る性の多様性 坂無 淳（環境学助教）
- 13：00～14：30 映画を通して考える『私の身体は誰のもの？』
幅崎麻紀子（環境学助教）

お問い合わせ：山形大学男女共同参画推進室
電話：023-626-5800 / 4923
E-mail: kaseijunko@yamanagita.ac.jp
ホームページ: <http://www.yamagata.ac.jp/kenkyu/daigou/>



パネル展示



パネル展示



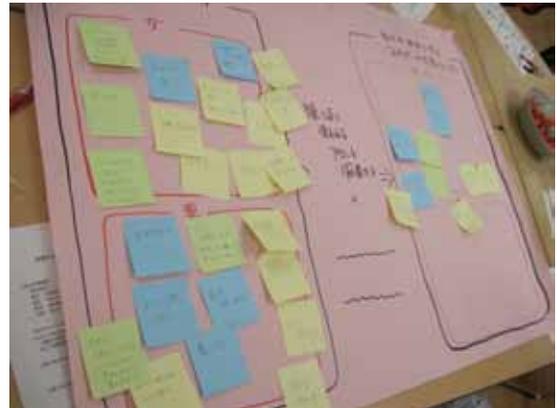
公開事業の様子



おしゃべりカフェ



おしゃべりカフェ



1-2-3. 男女共同参画フェスタの成果

男女共同参画フェスタは、昨年度は図書館で開催したが今年度は、大学の正門を入れてすぐの広報スペース（インフォメーションセンター）で開催したことにより、学内者のみならず、大学を訪問した人びとの目にも触れることとなり、多くの学外者にも会場に足を運んでいただいた。また、6月に策定した「山形大学男女共同参画基本計画」をパネルにして展示したため基本計画を策定したこと及びその内容について、周知することに繋がった。

公開授業では、通常の講義の受講者60～100名に加えて、学外からも約20名の参加者があった。ジェンダー関連の授業を公開することで、日頃より男女共同参画に関心を有する3～4年生で、教養教育に位置づけられる基盤教育院の授業を取ることが難しい学生たちが授業に参加することができ、評判は上々であった。

男女共同参画フェスタの来場者へのアンケート結果を見ると、回答者の85.7%が「有意義」と答えている。展示パネルへの関心度については、「メディアウォッチ」(61.9%)、「山形大学男女共同参画推進室の取り組み」(28.6%)、「山形大学男女共同参画基本計画」(14.3%)、「山形大学男女共同参画推進宣言」(14.3%)となっており、「メディアウォッチ・パネル」への関心が高かった。

「山大でも、こんなにもいろいろな取り組みを行っているとは思わなかった。自分の知らないところでたくさんの取り組みがされており、もっと多くの人にこういった取り組みのことを知ってもらえれば良いと感じた。」「パネル展、友人と話しながらか見られる雰囲気だったので、とても楽しかったです。」などの感想が寄せられた。

しかし、学内・学外者が共に参加しやすいように土曜日に行ったイベントについては、当日、TOEICの試験日と重なっていたことに加え、「内容的に興味はあるものの、授業の無い休日にも関わらず大学に来ることへの抵抗感がある」との意見が聞かれ、休日に開催することの難しさを実感することとなった。

1-3. 男女共同参画国際シンポジウム

平成 20 年度の「本格スタート！山大の男女共同参画」、平成 21 年度の「見つけよう！あなたのワークライフバランス」に引き続き、本年度は、「女性研究者の育成と支援 The 3rd Symposium on Gender Equality: Toward Encouraging Women in Academic Career」と題して、男女共同参画国際シンポジウムを、平成 22 年 11 月 12 日（金）に、小白川キャンパス内の基盤教育 1 号館 121 教室にて開催した。

1-3-1. 国際シンポジウム開催の目的と対象者

現在、山形大学では、科学技術振興調整費の女性研究者支援モデル育成事業として「山形ワークライフバランス・イノベーション」に取り組んでいる。本年 6 月には、「山形大学男女共同参画基本計画」を策定し、全学的に取り組む具体的な方針と施策を決定したところである。現在、全学において男女共同参画意識を醸成し、個々人の性別に関わらずあらゆる活動において個性と能力を発揮し、学業・仕事と生活の調和（ワークライフバランス）の実現を図っているところである。そこで、本シンポジウムを通して男女共同参画意識を高め、「地域に根ざし世界をめざす大学」として、国際的な観点も含め、学外から本学の取り組みがどのようなものであるかを検証するため、国際シンポジウムを開催することとなった。特に今回のシンポジウムは、山形大学男女共同参画基本計画の最重要項目の 1 つである「教職員等の男女機会均等の実現・格差の是正」を図ることに焦点を合わせ、女性研究者の育成と支援をどう行っていくかをテーマとし、国内の先進的事例であるお茶の水女子大学とカリフォルニア大学バークレー校の実践例を取り上げ、女性研究者支援の方法を学ぶ機会とした。

1-3-2. 国際シンポジウムの概要

特別講演 I では、情報システム研究機構理事・前お茶の水女子大学長の郷通子先生を講師としてお迎えし、「女性研究者のエンパワーと活躍に向けて」と題して講演が行われた。ご講演では、郷先生ご自身の研究者としての歩みをお話いただくと共に、お茶の水女子大学の女性科学者・技術者への主な支援プログラム（出る杭を育てるリーダー育成、女性研究者（子育て中）支援モデル、主婦を研究の世界によびもどそう等）の内容とその事業の

効果、学長から全学へ呼びかけて実施した業務改善に関する取り組み等の事例の紹介、そして、米国の女性科学者の活躍を紹介しながら、日本の女性研究者の活用のステップについてご講演された。特別講演Ⅱでは、カリフォルニア大学バークレー校分子細胞生物学部名誉教授のキャロライン・ケイン先生から、「大学における教職員の採用と活躍を拡大するために～男女共同参画に向けて」と題して講演が行われた。ご自身の研究者としての経験、高等教育機関における男女共同参画の重要性、それを実現するための具体的な方法（データを提示することや女性研究者成功のためにそれぞれが行う役割）、女性研究者自身が目標に到達するためにすべき事柄等について、ジェスチャーを交えながらご講演をされた。

その後、10分間の休憩を挟んで、1時間に及ぶ質疑応答の時間を設けた。事前に質問紙を配付し、会場から多数の質問ペーパーが集まり、女性研究者を増やすための有効な手立てや就業時間内に会議を終わらせる時間についての改善策を問う等の具体的な方策を尋ねる質問に加え、講師の先生方のワークライフバランスの取り方や、先生方にとってのロールモデルはどのような方々か等、教職員のみならず学生・一般参加者等からも多様な質問が寄せられた。

【日時・会場】

平成22年11月12日（金）13:00～16:50

場所：小白川キャンパス 基盤教育1号館 121教室、

米沢キャンパス、飯田キャンパス、鶴岡キャンパスへもテレビ同時配信

定員：130名

【特別講演者】

郷 通子氏／大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構理事
前お茶の水女子大学長

キャロライン ケイン氏／カリフォルニア大学 バークレー校
分子・細胞生物学部 名誉教授（分子生物学）

【プログラム】

13:00～13:15 開会の挨拶

13:15～14:15 特別講演Ⅰ 郷 通子氏

「女性研究者のエンパワーメントと活躍に向けて」

14:15～15:30 特別講演Ⅱ キャロライン ケイン氏

「大学における教職員の採用と活躍を拡大するために～男女共同参画に向けて」

15:30～15:40 休憩

15:40～16:40 質疑応答

16:40～16:50 閉会の挨拶

男女共同参画 国際シンポジウム
女性研究者の育成と支援

*The 3rd symposium on Gender Equality
Toward Encouraging Women in Academic Career*

2010年 **11/12(金)**

13:00~16:50 (開場12:30)

場所:山形大学小白川キャンパス 基盤教育1号館121教室



特別講演 I 13:15~14:15
「女性研究者のエンパワーと活躍にむけて」

郷 通子 氏

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構理事 前お茶の水女子大学学長



特別講演 II 14:15~15:30
「大学における教職員の採用と活躍を拡大するために
～男女共同参画に向けて～」

キャロライン ケイン 氏

カリフォルニア大学 バークレー校 分子・細胞生物学部 名誉教授(分子生物学)

講演後に質疑応答の時間(15:45~16:40)があります。

参加無料・通訳あり ※医・工・農はテレビ同時配信します。

●問い合わせ

山形大学男女共同参画推進室

電話023-628-4937・4938・4989 HP:<http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/>

●申込み方法

氏名・住所・電話番号をご記入の上、お申し込みください。(当日参加も受け付けます)

託児あり(お子様の年齢と性別をご記入の上、事前にお申し込み下さい)

メール:jimu@aisoho.jp FAX:023-673-0703

主催:山形大学

後援:山形県・山形市・山形新聞・山形放送・(特)やまがた育児サークルランド・(特)山形親子療育支援ネットワーク・AISOH0組合

山形の花(国産)



1-3-3. 当日の様子





1-3-4. 成果

当日は 127 名の参加があり、その内訳は小白川キャンパス 119 名（学内 89 名、学外 30 名）、飯田キャンパス 2 名、米沢キャンパス 4 名、鶴岡キャンパス 2 名であった。

本年度は、国際シンポジウムとすることで、日本と米国の研究機関における男女共同参画の現状を知る機会となった。特に、国際的に活躍するお二人の女性の研究者の講演は、若手研究者や学生にとって、「最高のロールモデル」のお話として大いに刺激になったようである。更に、学術分野における国際社会の動向からみて、本学の男女共同参画の取り組みの意義と重要性を理解する良い機会となり、全学における男女共同参画への関心の高まりに繋がっている。

参加者へのアンケート調査からは、これからもこのようなテーマでの話し合いの機会を望む声が寄せられている。

一方で、授業時間中の開催であることに加え、他のイベントと重なっていたため、興味を持ちつつも参加できない教職員が少なからずおり、シンポジウムの開催時間を設定する際には、全教職員が参加しやすい時間を設定する必要がある。

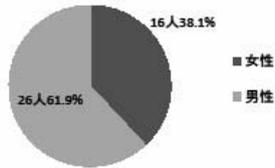
一般の参加者にとっては、「女性研究者の育成と支援」というタイトルであったため、馴染みにくいテーマであったが、日本以外の男女共同参画の取り組みについての話を聞く機会の乏しい当地において、第一線で活躍する研究者の話は新鮮であり、且つ貴重な機会となったようで、内容については概ね好評であった。

1-3-5. アンケート調査結果

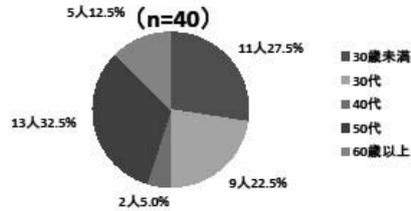
国際シンポジウム(2010年11月12日開催)アンケート結果(42人回収)

作成 2010年11月24日 山形大学男女共同参画推進室作成

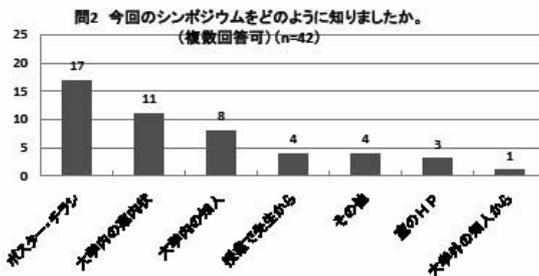
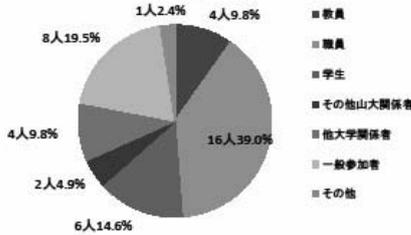
問1-1 参加者の性別
(n=42)



問1-2 参加者の世代
(n=40)



問1-3 参加者の所属
(n=41)

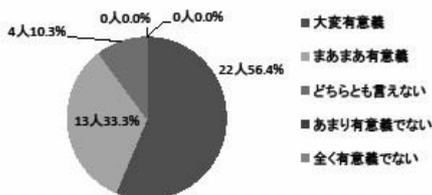


その他の例	推進室からの先生から 岩手大男女参画推進室
-------	--------------------------

問3 シンポジウム全体の感想
(n=40)



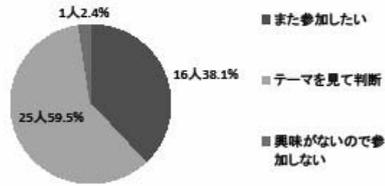
問4 講演Ⅰ(郷先生)の感想
(n=39)



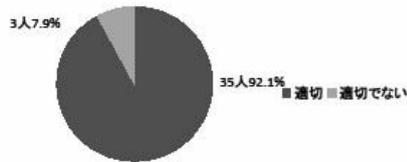
問5 講演Ⅱ(ケイン先生)の感想
(n=37)



問6 今回のシンポジウムのような企画があれば
また参加しますか
(n=42)



問7 今回のシンポジウム開催時期は適切ですか。
(n=38)



適切でないと考えた方の参加しやすい時期
授業時間中ではなく放課後に、いろいろなイベントと重なっていたようなので全学的にみて、
時期としてはもう少し開催してほしい。
土曜日がよりよい。

3

問8 男女共同参画推進室への要望、シンポジウムの感想等ご自由にご意見をお聞かせください。

岡先生のご講演を通した大学の中での男女共同参画の意義とその効用についてのご講演は、大学の管理職者の意識改革に大きなインパクトを与えたのではないかと感じられました。最高のロールモデルでした。モデル事業を実効性のあるものにするために、教員（教員人事は部局のことです）の意識啓発のための取組アイデアを是非情報として交換できたらと思っています。

女性研究者はもちろん、若手研究者のポジションをいかにして確保していくかはかなり深刻な問題です。この問題が少しでも改善されない限り、女性研究者も増えないでしょう。このようなテーマをもっと扱うべきだと思います。

海外の環境を含めてシククハウス（E.M.F.プログラム等）につきましてご紹介いただけましたらありがたく存じます。

おふたりの講演とも、ご自身の体験のお話もあり、大変参考になりました。会議短縮（9時～5時）にぜひ実現できれば、講演の通訳がうまく対応していないのが気になりました。せっかく米国から来ていただいているのですから。質疑応答は良かったです。

男女共同参画の前に、3年間という期限付き雇用の改善の方が重要だと思います。

大学関係者ではないので、自身の業務に活かせる部分は少ないと感じた。ただ、日本以外の男女共同参画の取組に触れるのは初めてだったため、その点では有意義であった。

山形そのものの男女共同参画推進とは異なり、今回のようなパターンの講師の方のお話は大変すばらしい。なかなかお聴きできないので、女性研究者のお手本・パワーいただきました。最後までお聴きできず残念。

事前に資料を配付してくれればよかった。同時通訳が対応していない場面もあった。ケイン氏の生の声がもう少し伝わればよかったと思う。

もっと女性研究者や学生の参加拡大を図るべき。

一人の“生き方”もそれぞれ発表してくれたことがとてもよかった。

貴重なお話をお聞きして有意義でした。

大変良い勉強になりました。ありがとうございました。

女性だからという理由で、困難な仕事、役割から逃げないような「女性自らの意識向上」についてのシンポジウムや講演、研修、出産時にキャリアをあきらめてしまう（退職など）方が今もなお多いので、その後しっかり働ける時期があるのだと知ってもらえるようこのような様々な体験談を聞ける場をさらに提供してほしい。

4

1-4 女性研究者のネットワークづくり

研究者支援策を立てる上で当事者の意見が必要であったこともあり、子育て期研究者のランチの会を数回開催したところ、「子どもを抱えて単身赴任をしているのは自分だけではないことがわかった」などの声があり、情報交換や共感し合う場となった。女性たちが相互に支え合えるネットワークづくりの必要性があることがわかり、全女性研究者を対象に、学部・キャンパスを超えた女性研究者交流会（ランチミーティング）開催を呼びかけ下記のように実施した。

さらに第2回女性研究者交流会からはもっと積極的に男性の参加も促し、共にワークライフバランスを考え情報交換をする機会となるようにした。

	日 時	主 な 内 容
第1回子育て期 研究者ランチの会 (9名参加)	11月10日(水) 11:30~13:30	育児支援制度、研究継続支援員制度、メンター制度、ユビキタス・ワーキング・システムについての意見聴取と参加者自己紹介、情報交換をした。
第2回子育て期 研究者ランチの会 (8名参加)	11月26日(金) 11:30~13:30	前回の意見聴取後、改善した点を説明した。それぞれが抱えている問題についてのアドバイスや意見交換ができた。
第1回女性研究者 交流会 (13名参加)	12月27日(月) 11:30~13:00	全女性研究者対象に開催をフォーマルに知らせ参加希望を募った。日頃会う機会のない他学部、他キャンパスから13名の参加があった。「初めて会う方と話げできた。」「いつもと違う大学の雰囲気を感じた。」「女性だけでなく子育てや介護を相談したいと思っている男性もいる。」という話が出され、次回からは男性の参加も促すことにした。
第2回女性研究者 交流会 (9名参加)	2月22日(火) 11:30~13:00	2名の男性を加え、テーマに別れて意見交換ができた。
第3回女性研究者 交流会(予定)	3月29日(火) 1:30~13:00	



1-5 ニュースレターの発行

本学の男女共同参画推進の取組への理解を広めるため、平成 21 年度 11 月創刊のニュースレターを継続して発行した。第 3 号（平成 22 年 7 月発行）、第 4 号（平成 22 年 10 月発行）、第 5 号（平成 23 年 1 月発行）、第 6 号（平成 23 年 3 月発行予定）を発行し、学内の教職員・学生及び学外の男女共同参画関係機関に配布した。

	主 な 内 容
第 3 号 7 月	1. 「山形大学男女共同参画基本計画」の策定に当たって 山形大学長 結城章夫 2. 「山形大学男女共同参画基本計画」（平成 22 年 6 月策定） 3. 「男女共同参画フォーラム～女性にとって魅力ある工学部とは～」5 月 10 日 4. 「高木直教授 男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰」6 月 22 日 5. 「第 2 回山形大学男女共同参画フェスタ開催」6 月 22 日～7 月 5 日 6. 女性研究者からの The Message【第 3 回】理学部 長谷見晶子教授
第 4 号 10 月	1. 「学長・学部長と女性研究者等との懇談会開催」7 月 8・9 日、8 月 2・9 日 2. 「女子高校生・大学対象 国際ナノプラシキトン学会公開講座」9 月 7 日 3. 「朗報 山形大学男性育児休業取得第 1 号」9 月 27 日 4. 「平成 22 年度山大託児サポーターの誕生」 5. 「第 1 回アドバイザー・ボードの開催」7 月 16 日 6. 女性研究者からの The Message【第 4 回】農学部 木村直子准教授
第 5 号 1 月	1. 「国際シンポジウム『女性研究者の育成と支援』開催」11 月 12 日 2. 各種の女性研究者支援制度の紹介 3. 「第 1 回女性研究者交流会 lunch meeting を開催しました」12 月 27 日 4. 「女子高校生・大学生対象 女性研究者裾野拡大セミナー開催」 5. カリフォルニア大学バークレー校のワークライフバランス取組紹介 6. 女性研究者からの The Message【第 5 回】人文学部 金子優子教授
第 6 号 3 月	1. 「目指せ！理系マドモアゼル！！理系女子力 UP セミナーの開催」1 月 19 日 2. 「各キャンパスでメンター講習会開催」 3. 研究継続支援員制度の利用者からの声 4. 第 2 回アドバイザー・ボードの報告 5. 女性研究者からの The Message【第 6 回】医学部 鈴木匡子主任教授

1-6. ホームページのリニューアル

1-6-1. 概要

ホームページでの情報発信が、いまや情報発信ツールとして大きな位置を占めている。当室で実施している様々な事業についても、ホームページより情報を得た上で当室に問い合わせをする例が増加しつつある。こうした状況を受けて、平成 22 年 5 月 11 日より、ホームページの大幅なリニューアルを行った。背景に山形県を象徴する紅花をモチーフに用い、親しみやすく明るい配色に変更すると共に、常に新着情報をアップし、スピーディーな情報発信に努めている。

ホームページに記載している内容は、下記の通りである。

○推進室について—山形大学長挨拶、男女共同参画推進に関する規定、体制図、構成員

○イベント—本学のイベント(これから)、本学のイベント(これまで)、他機関のイベント

○主な取り組み—託児サポート、巡回相談、ユビキタス、メンター

○お役立ち情報—研究継続支援員、相談窓口、WLB 休暇等の制度、書籍

○Magazine, Newsletter, Report

○山形大学男女共同参画推進宣言、山形大学男女共同参画基本計画、次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画、男女共同参画に関する法律・計画・白書、統計データ

平成 22 年 10 月からは、国際公募や留学生誘致を念頭に、英語版のホームページを公開し、英語での情報発信をスタートしている。



1-6-2. アクセス状況

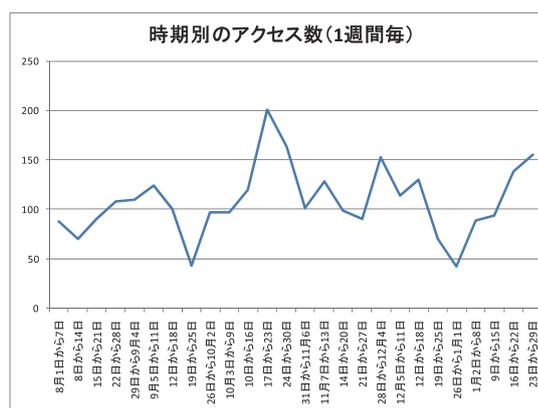
平成22年8月1日～平成23年1月31日までの6ヶ月間に、合計2,858回のアクセスがあった。ページビュー数は5,094回であり、1回のアクセスで平均1.78ページを閲覧していたことがわかる。平均サイト滞在時間は、2分4秒であった。

セッション数で最も多い地域は必然的に本学の位置する山形県内となっており、その数は1,727件である。次いで、仙台、東京、盛岡と、東北エリア、関東圏に集中しているものの、遠くは韓国や米国からもアクセスがあり、英語版ホームページの閲覧も行われている。

曜日別のセッション数からは、月曜日～金曜日に閲覧が集中しており、土・日曜日には平日の五分之一に激減している。時期別に見たセッション数の動向からは、国際シンポジウムの開かれた11月中旬にアクセス数が増加し、年末年始の休暇期間中に減少している。

これらの状況より、ホームページへのアクセス数は、当室が行う事業と連動していることがわかった。すなわち、当室での事業を活発に行うほど、ホームページへの訪問が増加しているため、今後も積極的に事業を行うと共にホームページを通して情報を発信していきたい。

地域	セッション数 (回)	1回当たりの 閲覧ページ数
山形	1,727	1.81
仙台	90	1.56
東京	86	1.62
盛岡	67	1.67
米沢	46	1.41
新宿	45	1.64
福岡	36	1.47
渋谷	34	1.71
京都	34	1.59
筑波	33	1.94



【ぱれっと通信 第11号】

☆★☆☆☆山女共同参画推進 ぱれっと通信第11号☆☆☆☆ (H22.12.1発行)
今年も残すところあと1ヶ月。昨年インフルエンザが猛威を振るいましたが、皆さま、体調管理には十分お気を付け下り、新年に向けて頑張りますように。

◆◆◆◆◆女性研究者への研修～研究継続支援員が研究をお手伝いします！◆◆◆◆◆
男女共同参画推進室では、「研究継続支援員の活用」を募集します。
「研究継続支援員制度」とは、本学に勤務する全ての研究者がワークライフバランスを保ちながら研究活動を行うための環境作りの一環として行う事業で、出席、育児、介護等により十分な研究活動を行うことができない女性研究者に「研究継続支援員」を配置し、研究の支援を行うことで、継続して研究を行うことができるよう支援するものです。
利用対象者は、「①妊娠中、又は、子育て中で研究活動に支障が生じている方、②要介護の認定を受けている親族(同居別居は問わない)を介護しており、研究活動に支障が生じている方、③勤務地の都合により、2世帯以上の生計を営んでおり、研究活動に支障が生じている方、④その他、上記に準ずる理由により、研究活動に支障が生じている方」です。
利用期間：申請が採択されたから2011年3月末まで
締め切り：12月10日(金)
応募方法：以下からダウンロードして推進室へ、ご提出下さい。
http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/support/kenkyu.html
山形大学男女共同参画推進室のHPからも利用申請書をダウンロードできます。

◆◆◆◆◆国際シンポジウム(11月12日開催)のご報告◆◆◆◆◆
国際シンポジウム「女性研究者の育成と支援」を開催しました。
学内外から、12名の参加がありました。ご参加ありがとうございました！
小白川会場は満席状態で、熱気あふれる活発な質疑応答もあるシンポジウムとなりました。
「学長と理事がシンポジウムの最初から最後まで参加されるほど、山形大学は男女共同参画に力を入れているんですね」と二人の講師の先生から、ご感想をいただきました。
報道先生からは、女性の学長として寄与されたエピソードが話題され、週3日あった会議を1日にまとめて行い5時に終了する工夫をされたことに、会場から賞賛が注がれていました。
キャロライン・ケイン先生(カリフォルニア大学パーカー校)からは、「アメリカでも研究者カップルが増えてきた」という問題があったが、今では大学で採用した教職員のパートナーに対する就職サポートがあるとのことと、今後は日本でも必要な支援のひとつではないかと思いました。

詳しくは、男女共同参画推進室の活動報告書やニューズレターでお知らせします。お楽しみに！

◆◆◆◆◆他機関の男女共同参画推進イベント情報◆◆◆◆◆
12月は各大学で男女共同参画シンポジウムが開催されています。どうぞ足運んでみて下さいね。
○津田塾大学 テクノロジー分野で働く女性のためのネットワーク
日時：12月4日(土) 13:30～17:40
会場：津田塾大学千秋ヶ谷キャンパス 津田ホール1階 会議室T101
詳細：http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/pdf/2010.12.4.pdf

○金沢大学 女性研究支援シンポジウム「多様な人材を活かす大学へ」
日時：12月7日(火) 13:30～17:00
会場：金沢大学自然科学棟義棟
詳細：http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/pdf/kanazawa.12.7.pdf

○徳島大学 AWAサポートシステム キックオフシンポジウム
日時：12月7日(火) 15:00～17:30
会場：メディカルホール(徳島大学病院西病棟11階)
詳細：http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/pdf/2010.12.7.pdf

○大分大学 キックオフ・シンポジウム～地域で育む「輝く女性研究者」支援～
日時：12月16日(木) 13:30～16:30
会場：大分大分空ホテル
詳細：http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/pdf/2010.12.16.pdf

○岡山大学『ダイバーシティこそが活力を生む～女性研究者が活躍できる組織作りをめざして～』
日時：12月18日(土) 14:00～17:00
会場：岡山大学創立五十周年記念2階会議室
詳細：http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/pdf/okayama.pdf

◆◆◆◆◆「目指せ！理系マドモワゼル 理系の女子UPセミナー」の開催◆◆◆◆◆
山形大学において、「目指せ！理系マドモワゼル 理系の女子UPセミナー」が開催されます。このセミナーは工学部の若手女性研究者の企画で、主催：山形大工学部、共催：山形大男女共同参画推進室です。是非、みなさまのご来場をお待ちしております。
日時：2011年1月19日(水) 13:30～19:00
会場：山形大学工学部4号館中示範C教室
詳細：http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/pdf/2011.1.19.pdf

来年度も、「後輩となる女性研究者育成を目的としたセミナー」の企画を募集します！

◆◆◆◆◆年休を取りましょう！◆◆◆◆◆
今年もあと30日になりました。今年皆さんは年休を取得されましたか？
山形大学では一人あたり10日以上年休取得を目標にしています。
(山形大学次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画)
http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/pdf/150daikaikaku.pdf
平成20年度のワークでは、年休の平均取得率は77%です。
皆さま、ぜひ年休を取って、ご自身のワークライフバランスのためにご利用下さい。

◆◆◆◆◆子育て・女性教員お役立ち情報◆◆◆◆◆
全国的に家庭的保育制度の必要性が期待される中、山形市内でも、市から委託を受けた保育ママが、自宅等で家庭的な雰囲気の中、少人数の幼児を保育する事業が始まっています。山形市の保育ママは、保育士の資格を持つ方が、栄養、衛生、楽遊、心理、救命等の「保育ママ」としての研修を受け、山形市からの認定を受けて行っています。
対象児：山形市内に居住している生後2ヶ月～2歳
保育時間：午後7時30分～午後6時まで(6時以降は別途料金がかかります)
保育曜日：月曜日～金曜日
定員：1名～5名
申込方法：保育ママに連絡し見学して下さい。
保育ママから申込用紙を受け取り記入し、市役所(子ども課)まで提出して下さい。
申込締め切りは利用希望日の前月15日までです。
保育ママを利用しながら、許可保育園の申込も可能です。
詳細：http://www.kosodate-yamagata.jp/modules/pico/index.php?content_id=166
家庭的保育連絡協議会：http://www.familyhoiku.or.jp/

◆◆◆◆◆自分で自分を褒めてあげましょう！◆◆◆◆◆
クリスマス時期ですね。サンタさんは来ませんが、自分で自分を褒めてあげましょうね。
いつもより頑張っている自分へのご褒美は何にしようか？旅行、ショッピングなど人それぞれですが・・・ネットの調査ではやはり食のようです。

- 第1位「食べる」と幸せになっちゃう！ 「お菓子・スイーツ」……57.5%
第2位「おいしいものを食べて気分転換！」「食事に行く」……31.8%
第3位「音楽や文章に触れてパワー充電！」「CDや本を買う」……24.0%
第3位「疲れて取れて元気になる！」「マッサージに行く」……24.0%
第5位「飲み物を楽しみながらまったり。」「カフェに行く」……22.4%
第6位「自分を褒めるのがご褒美です！」「化粧品を買う」……17.2%
第7位「話題の映画でリフレッシュ！」「映画を観る」……14.9%
第8位「酔えば嫌なことも吹き飛ばす！」「お酒を飲む」……14.6%
第9位「バスタイムを優雅に消費！」「入浴剤を使う」……10.1%
第10位「指先がキレイだとテンションがある！」「ネイルサロンに行く」……7.1%
＊働く女子に聞く「自分へのご褒美にしているプチ贅沢」ランキング 『escalca cafe』にて2010年9月にWebアンケートより

それでは、みなさま、良いお年を。

【ぱれっと通信 第12号】

☆★☆☆☆山女共同参画推進 ぱれっと通信第12号☆☆☆☆ (H23.1.4発行)
新春明けましておめでとうございます。皆様、初詣は行かれましたか？お雑煮は食べられましたか？
今年の抱負は何でしょうか？思いを新たに！また今年一年が皆様にとって良いお年でありますように。

◆◆◆◆◆巡回相談を行います◆◆◆◆◆
昨年よりご意見やご要望をお聞きしましたが、今年も「巡回相談を取り寄せ」が始まりました。
全学部の女性研究者に相談の日程をお送りします。今年は、仕事と育児等の両立に向けた相談、ワークライフバランスを可能にする職場づくりのご意見とご要望に加え、研究者としてライフとワークのバランスの取り方や、問題を乗り越えるテクニックなどをお聞きしに参りたいと思います。
ご多忙とは思いますが、どうぞ、いろいろなご意見をお聞かせください。
ご協力のほど、よろしくお願い致します。

昨年、皆様から頂いたご質問やご要望を男女共同参画推進室のHPに1月中旬にアップいたします。是非、ご覧下さい～詳細：http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/work/jyunka.html

◆◆◆◆◆「目指せ！理系マドモワゼル 理系の女子UPセミナー」の開催◆◆◆◆◆
山形大学において、「目指せ！理系マドモワゼル 理系の女子UPセミナー」が開催されます。このセミナーは工学部の若手女性研究者の企画です。みなさまのご来場をお待ちしております。
日時：2011年1月19日(水) 13:30～19:00
会場：山形大学工学部4号館中示範C教室詳細
http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/pdf/2011.1.19.pdf

来年度も、後輩となる女性研究者育成を目指したセミナー「女性研究者裾野拡大セミナー」の企画を募集します！ご希望下さい！

◆◆◆◆◆研究継続支援員制度の再募集のお知らせ◆◆◆◆◆
先月ご紹介しました研究継続支援員制度は、初めての試みでしたが、ご好評を頂き、ほぼ全学部からたくさんの応募があり、申請書に基づいて審査した結果、7名の女性教員の方々の申請を採択しました。
現在、本年度予算に若干の余裕があるため、再募集を行っております。
まだ、申請していない女性研究者の皆さま、是非ご活用下さい。
支援対象者：①妊娠中又は小学6年生までの子育て中の者
②市町村から要介護の認定を受けている親族(同居別居は問わない)を介護している者
③勤務地の都合により、2世帯以上の生計を営んでいる者
④その他、上記理由に準ずる者

申込締切日：平成23年1月14日(金)
応募方法：以下からダウンロードして推進室へご提出下さい。
http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/support/kenkyu.html
問い合わせ：男女共同参画推進室(内線4938)

*【研究継続支援員制度】とは 本学に勤務する全ての研究者がワークライフバランスを保ちながら研究活動を行うための環境作りの一環として行う事業で、出席、育児、介護等により十分な研究活動を行うことができない女性研究者に「研究継続支援員」を配置し、研究の支援を行うことで、継続して研究を行うことができるよう支援するものです。

◆◆◆◆◆女性研究者交流会の報告◆◆◆◆◆
12月27日に、第一回女性研究者交流会を小白川キャンパス厚生会館で開催しました。ご参加頂き、ありがとうございました。12名の参加者があり、ランチをしながら他学部の方々と交流し、楽しい一時となりました。今後も、女性研究者が交流し情報交換できる場を設けていきます。次回もお楽しみに！

◆◆◆◆◆休暇等に関する規定の改正が行われました◆◆◆◆◆
休暇等に関する規程が12月1日付で改正され、より利用のしやすい内容となりました。平成23年1月1日より施行されています。主な改正は次の通りです。
①直前休暇が6週間→8週間になりました。

②結婚休暇(5日)の取得日が1月以内→6月以内になりました。
③子の養育休暇(5日)の取得日が6週間前→8週間前になりました。
詳細：http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/support/wlb_2.html#06

皆様の声があつてこそこの改正です。ご意見を男女共同参画推進室へお寄せ下さい。お待ちしております。

◆◆◆◆◆他機関の男女共同参画推進イベント情報◆◆◆◆◆
○男女共同参画フォーラム in 仙台
日時：平成23年1月29日(土) 13:00～16:20(12:30開場)
場所：仙台国際センター 橋(宮城県仙台市青葉区青葉山無善地)
主催：内閣府、仙台市
内容：13:00～開会・内閣府からの報告等
13:40 基調講演 講師：佐々木 かをりさん(株式会社イー・ウーマン 代表取締役社長)
演題「支援力を高める～女性のキャリアとワーク・ライフ・バランスの実現～」
14:50～ パネルディスカッション テーマ：「女性のキャリア構築と経済活動」
パネリスト 佐々木 かをりさん、(基調講演講師)
稲葉 雅子さん(株式会社ゆいネット 代表取締役)
鈴木 利明さん(資生堂販売株式会社 東北支社長)
光畑 由佳さん(有限会社サーハース 代表)
コーディネーター 遠藤 恵子さん(財団法人せんだい男女共同参画財団理事長)
参加方法：申込必要(先着順、1月20日(木)締切)
託児を要する場合は、要予約
問合せ先：仙台市市民局市民協働推進部男女共同参画課
TEL E 022-214-6143 FAX 022-214-6140 E-mail nim004180@city.sendai.jp

◆◆◆◆◆子育て・女性教員お役立ち情報◆◆◆◆◆
皆さんは「山形県小児急患電話相談」をご存知ですか？山形県では、お子さんの発熱や下痢等の急病の際に、小児科医の支援体制のもと専門的な知識と経験を有する看護士が、医療機関への受診や家庭での対処方法についてアドバイスを行う「山形県小児急患電話相談」を行っています。
相談：日曜・祭日・年末年始を含め毎日実施しています。
相談時間：19時～22時まで(3時間)
電話番号：#8000(プッシュ回線・携帯電話)もしくは023-633-0299(ダイヤル回線・PHS)
主な相談内容：①子どもの発熱についての相談
②子どもの嘔吐や下痢等についての相談
③その他の子どもの急な病状についての相談 など

注意：
①子どもさんの急な病状に対してアドバイスを行うものであり、診療行為を行うものではありません。
②相談後に医療機関を受診するにしない場合は、最終的にはご自身で判断をお願いします。
③電話中のお話は録音させていただきます。
④相談はおおむね10分以内とさせていただきます。

詳細：
http://www.pref.yamagata.jp/health/health/6090001/pubhcdocument/200703091651234159.html
急病時に役立つ情報(PDF)：
http://pref.yamagata.jp/ou/kenkofukukishi/090001/09yakuu_ssgai/kenkodomomokyuyakuu_20.pdf
小児急患電話相談事業相談実績(PDF)：
http://www.pref.yamagata.jp/ou/kenkofukukishi/090001/09oungaiyu.pdf

【ぱれっと通信 第13号】

★☆☆☆山女共同参画推進 ぱれっと通信第13号☆☆☆ (H23.2.1発行)
冬本番で、通勤にも時間がかかる2月ですが、皆さまいかがお過ごしでしょうか？
2011年の恵方は南南東です。恵方巻を食べ、運気を上げていきましょう。

◆◆◆◆◆巡回相談を行います◆◆◆◆◆
昨年同様皆様よりご意見やご要望をお聞きしましたが、今年も「巡回相談聞き取り事業」が始まっています。
随時、全学部の女性研究者の皆様へ「相談聞き取り事業へのご協力のお願い」と「日程伺い表」をお送りします。
今年も、仕事と育児等の両立に向けた相談、ワークライフバランスを可能にする職場づくりへのご意見とご要望に加え、
研究者としてライフとワークのバランスの取り方や、両立のためのテクニックなどをお聞きしに参りたいと思っております。
ご多忙とは思いますが、どうぞ、いろいろなお意見をお聞かせください。
ご協力のほど、どうぞよろしくお願いたします。

昨年、皆様から頂いたご質問やご要望を男女共同参画推進室のHPにアップしております。
是非、ご覧下さい→詳細: <http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/works/jyunkai.html>
問い合わせ先: 男女共同参画推進室 (4938)

◆◆◆◆◆メンター講習会のご案内◆◆◆◆◆
新人や若手の育成支援として、近年、企業や大学で注目されているメンタリングについての講習会を山形大学において開催します。

これは、身近にロールモデルが少なく孤立感を感じやすい女性研究者の支援の一環として開催するものですが、男女にかかわらず先輩(メンター)として若手を育てる関わり方を理解し、具体的なスキルを身につけることを目的として実施します。

日時: ○米沢キャンパス
2月2日(水) 13:00~17:00 工学部第一応接室
○小川・飯田キャンパス
2月16日(水) 13:00~17:00 事務局棟第一会議室
2月18日(金) 13:00~17:00 事務局第一会議室
○鶴岡キャンパス
2月17日(木) 13:00~17:00 農学部会議室
講師: 石井邦子氏(ナチュラルワイルズ有限会社取締役社長)
奥中美香氏(株式会社キャリア・アド代表取締役)
内容: ○メンタリングとは
○よいメンターになるには
○メンタリングのためのコミュニケーションスキル
○事例検討等
受講申込方法: 男女共同参画推進室(内線4937)にご連絡下さい。
詳細: <http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/pdf/mentor.pdf>

◆◆◆◆◆女性研究者交流会のご案内◆◆◆◆◆
今年も2月に1回のペースで、女性研究者が集えるランチ会等を企画していきます。
今回からは、ワークライフバランスについて語り合い男性研究者も参加できます。身近な方をお誘い下さい。
お時間がある方は是非参加して、情報交換をしましょう。

日時: 2月24日(木) 11:30~13:00
場所: 小川川キャンパス 厚生会館2階 Ange(アンジェ)
会費: ランチ600円 (サラダ・コーヒー付)、コーヒー150円 ランチ持参も可
対象: 山形大学常勤研究者・博士後期課程在籍者・ポストドクター・医員他
申し込み締め切り: 2月20日
問い合わせ: 男女共同参画推進室 木村 内線(4937)まで

◆◆◆◆◆出産・子育て・介護に関する制度◆◆◆◆◆
山形大学の職員就業規則から、出産、子育て、介護に関する制度を紹介したパンフレットができました。
女性も男性も職場で能力を発揮するために、安心して出産、子育て、介護ができる環境を作ります。

皆さん是非活用してませんか？
内容は、こちらのホームページからどうぞ: <http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/pdf/2011panf.pdf>

◆◆◆◆◆他機関の男女共同参画推進イベント情報◆◆◆◆◆
○静岡大学 男女共同参画シンポジウム
「女性の潜在的な力を引き出す」～企業・大学・地域～
日時: 2011年2月22日(火) 14:00~17:00
場所: 静岡キャンパス (発達教育A棟301教室)
詳細: <http://www.shizuoka.ac.jp/sankaku/events/2011222poster.pdf>

○香川大学「四国女子研究者フォーラム」
日時: 2011年2月23日(水) 13:30~16:30
場所: 高松シンボルタワー国際会議場(6階)
詳細: <http://www.kagawa-u.ac.jp/sankaku/room/news.html#20110223>

○秋田大学
男女共同参画推進フォーラム「女性研究者支援を通じてワークライフバランスを考える」
日時: 2月16日(水) 15:00~16:30
場所: 秋田大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー2階大セミナー室
詳細: <http://www.akita-u.ac.jp/colocomi/topics/item.cgi?pro&22>

国際シンポジウム 「持続可能な男女共同参画のあり方を探る」
日時: 2月21日(月) 13:30~16:00
場所: ホテルメトロポリタン秋田3階【ジュエル】
詳細: <http://www.akita-u.ac.jp/nonbu/danjo/info/item.cgi?pro&31>

◆◆◆◆◆子育てお役立ち情報◆◆◆◆◆
○絵本の読み聞かせはしていますか？子どもの情感を育むためには、親しい人からの読み聞かせが一番だそうです。
山形県主催で2010年イクメン講座として「パパだって楽しい子育て」が開催されます。
子どもが引きつけられる読み聞かせ術を学ぶチャンスです。子育てを楽しみたいお父さんにおすすめです。
日時: 2月19日(土)
I部 11:00~12:00 「パパのための読み聞かせ講座」
II部 13:30~15:30 講演「パパだって楽しい子育て」
講師: 安藤秋広氏(特定非営利活動法人 ファザリング・ジャパン代表)
会場: 遊学館 3階 第1研修室
参加費: 無料・託児あり(無料) 要申込
対象: I部 子育て中のパパ・ママ40組、子どもは2歳から小学校低学年まで(先着順)
II部 子育て中のパパ、ママ、お父さんの子育てに関心のある方 80名(先着順)
問い合わせ: 山形県男女共同参画センター チェリア 電話 023-629-7751
詳細: http://www.yamagata-cheria.org/kouza/28_index_msg.html

山形県では「できることから始めよう」を合言葉に、県民ぐるみで、子どもや子育て家庭への応援活動を実施しています。
「山形みんな子育て応援団」は「ありがとうキャンペーン」パパからママへの、ママからパパへの「ありがとう」の募集やシンボルマークの愛称募集・婚活事業など様々な活動を展開しています。
詳細: <http://www.pref.yamagata.jp/health/nurturing/7010001kosodateohen.html>

◆◆◆◆◆ドキュメンタリー映画「うまれる」のご紹介◆◆◆◆◆
育児をするパパ「イクメン」が注目を集める一方、虐待や産後うつ、育児放棄なども報道され、精神的な被害を被ってしまった人たちが自殺や引きこもりという問題もあります。
どうしたら人は満たされるのか？
本当の幸せとは？
私たちはどこからきて、どこへいくのか？
すべての人はみな、何らかの役割を持って、お母さんのおなかから産まれてくると言えます。

そして、この地球上の人全てが、3億個の中から選ばれた1つの精子が受精した、たった0.13ミリの小さな小さな受精卵から始まった「奇跡的存在」です。

妊娠・出産・育児をテーマに、命の尊さ、自分自身の原点、家族の絆、人とのつながり、そして生きることを考えるドキュメンタリー映画「うまれる」が山形フォーラムで上映されます。
お時間のある方は劇場に足を運んで観て下さい。
上映日時: 2月19日(土) ~ 3月4日(金)
問い合わせ: 山形フォーラム 電話 023-674-0035
映画「うまれる」の詳細: <http://www.umareru.jp/story/>

◆◆◆◆◆その他◆◆◆◆◆
○正月太りに加えて、この寒さと雪では、外に出るのも大変ですよね。
お長や理系、女性研究者の方もリフレッシュのためにスポーツジムに通っているそうです。
肥満解消のためにジョギングを始めよう！なんて考えている方もいらっしゃるのではないのでしょうか？
○体脂肪を効率よく燃やすジョギング方法は、
1 食後よりも食前に走る。
2 最低20分以上、30分から40分がベスト。
3 週3~4回が理想的。

2月はバレンタインデーもありますね。自分へのご褒美にチョココレートでも買おうかな？